

# 大災害が起こった時、 具体的な備えと助け合い、 地域防災力を上げる知恵を学ぶ 浅野幸子さんの講座です。

平成27年11月22日開催講座より



**浅野 幸子** (あさの さちこ) さん  
減災と男女共同参画研修推進センター共同代表・早稲田大学地域社会と危機管理研究所招聘研究員 大学非常勤講師  
台東区育ち 金竜小学校卒

平日の午後2時、あなたの家族は全員一緒にいますか？

平日の午後2時、地元にいるのは、高齢者と女性と子供たちです。災害が起これば高齢者や女性、子供たちが自身で、自分の身を守り、地域の主力になって火災を消し止め、救命救助を行わなくてはなりません。頼りになる働き盛りの人たちが、そばにいないということを前提に考えなければ、避難行動や救命救助はできません。

そこで、地域の防災体制を作る上で、女性や子供の視点が不可欠になってきます。特に、避難訓練の企画や運営に女性や子供、高齢者、障害者などが参加しているかどうか。そうした方々の意見を取り入れられないと、避難の実態というのとはつかぬはず。



## 地域での助け合いが重要

防災の世界では自助・共助・公助という言い方がされます。災害直後は、行政機関も救援機関も被災していますから、すぐには住民のみに頼りつけることができません。住民が自ら命や財産を守らなければなりません。まず自分たちが怪我をせず命を落とさない自助。つぎに、隣近所同士で助け合い、救命救助や消火活動を行ったりすることが、自分を含めた地域全体の命や財産を守っていくことになる自助。自助で助かる人が減る程、共助が難しくなり、地域全体の危険性が増してきます。一人ひとりが自分の家族や地域全体に対して責任を負っています。そして、避難所で支援を受ける場合、例えば、住民自身が情報を集めて、必要な要望を具体的につかんでいる避難所、共助のある地域と、状況を把握していない避難所とは、どちらが早く行政の支援が公助が届きやす

## 避難所に行けば安心？

大規模災害時、関連死の多くが避難生活での肉体的、精神的疲労によるものです。環境の悪さ、衛生状態の悪さ、感染症など、理由はさまざまです。そのような避難所の環境では生活が困難な人たち、例えば家族に体の不自由な方がいる、認知症や知的障害のある方、妊婦や乳幼児連れ、持病のある方など、支援を必要とする災害弱者と言われる方々が、避難所に行かないケースが少なくありません。また、避難所や地域で対応に差があるのも現実です。避難所には3タイプあります。ひとつは指定される避難所、つまり小中学校などに避難するタイプです。もうひとつは指定外の施設、近くの自治会館や事業所の会議室に避難する場合。一般のお宅の空き店舗やガレージに一時的に

## 被災にも違いがある

生活環境面ではプライバシーの確保や衛生状態の問題があります。女性の場合、着替えや身体を拭けるような場所を用意しないと健康にもリスクがある。安全面からも、女性専

用の下着干場が必要です。乳幼児、障害者、認知症やその家族にもプライバシーの守られる落ち着いた場所が必要です。窓口に相談に来るのは女性が多いですから、女性が物資担当窓口に入り被災者の要望の取りまとめをして、在宅避難者に対しても支援が渡るように、地域全体で物資や食料を受け取る仕組みを作った地域が実際にあります。

暮らしの目線を持った女性たちの声というのが、地域全体の支援の質を左右します。普段、家族の体調を考えて、食料や衛生用品や衣料を揃えたり、実際に介護したりしているのは圧倒的に女性が多い。この人たちに避難所のリーダーとして入ってもらって、どんな意見を出してもらわないと、避難生活はうまくいきません。

災害時でも女性と子供に対する暴力が少なからず起こっています。環境の変化や喪失感などから、DVが悪化したり、新たに始まったり、性暴力やハラスメントもあります。避難所の中の盗撮、身体接触を伴う性暴力も起こっています。これを防止するためには暴力は許さないと、周囲の男性たちの毅然とした態度が必要です。同時に女性も防犯リーダーになって、情報収集し、どこを改善すると安心なのか聞いて、環境を変えていく。男性、女性、子供も交えて防犯対策を行い、安心して活躍できる状況を作ること、皆の負担を減らすことが重要です。

# 私と地域をつなぐ防災術

～女性・高齢者・障害者・子どもの立場から～ 避難生活で命を落とさず、健康を守る地域防災とは！?

## 地域の防災力を高めるためにも、男女共同参画が大事に

様々な知恵や工夫を出しやすいく雰囲気をつくれるかどうか、これからのリーダーに求められています。女性も男性とともに、責任者になり、多様な視点から防災に取り組むことが不可欠です。それは運営本部に入ることだったり、情報収集だったりします。先輩世代と子育て世代

ではニーズも感覚も違います。保育や栄養、医療、介護現場のプロの多くが女性ですが、肝心の衛生・栄養・育児・介護の知識のある女性たちに炊き出しやトイレ掃除だけを押し付けていたら、力を発揮できません。地域の防災力を高めるためには、女性も避難所運営や復興協議に参画できるようにすることが大切です。

## 性別役割分担って効果的？ あなたはどちらの避難所にいたいですか？



## B 避難所

